S.　Ashina

前期：キリスト教と政治思想

オリエンテーション

１．イデオロギーとユートピア

１－１：リクール１

１－２：マルクスとマルクス主義　4/24

１－３：黙示的終末論の系譜　5/22

１－４：ティリッヒ１　5/29

１－５：ティリッヒ２　6/5

１－６：リクール２　6/12

１－７：知恵思想の視点から　6/19

１－８：パウロとローマ帝国　6/26

２．キリスト教社会主義

２－１：キリスト教社会主義の―イギリス・アメリカ・日本―　7/3

２－２：宗教社会主義―ティリッヒ―　7/10

２－３：賀川豊彦のキリスト教社会主義　7/17

２－４：解放の神学　7/24

Exkurs

キリスト教と仏教１　5/8

キリスト教と仏教２　5/15

１．イデオロギーとユートピア

１―１：リクール１

１．問題：「イデオロギーとユートピア」という問題設定において、キリスト教と政治思想との関わりを論じる。リクールとティリッヒの議論を参照する。

２．近代はいかなる時代か

前近代から近代へのシステム転換に関して、キリスト教が積極的に関与できたのは、キリスト教が自らの内にイデオロギーとユートピアとを動的かつ有機的に統合し得ていたからである。そこにおいては、一方で、既存の意味世界の諸領域との動的連関が確保されており（状況適合性→しばしばイデオロギーへ偏る）、他方で意味根拠への志向性が確かな仕方で保持されていた（自己同一性→しばしばユートピアへ偏る）。それは、一七世紀という時代状況においては、自律的理性の圏域である意味世界とその宗教的意味根拠の次元とが、まだ分離せずに、キリスト教的宗教において統合されていたということに他ならない。

・近代化＝世俗化：信仰がイデオロギーとユートピアへと二者択一的に分解する過程

・宗教批判とは何か。宗教言語の指示機能の否定＝非実在論

・神話：非科学的（幼稚な迷信）→ユートピア

　　非歴史的（歪曲・虚偽）→イデオロギー

　↓

言語論・象徴論、社会的構想力という視点で近代の宗教状況を論じる。

３．Paul Ricoeur, *Lectures on Ideology and Utopia*（ed. by George H. Taylor）,Columbis

University Press, 1986.
（1975 年の秋学期にシカゴ大学で行った講義）
第一回　はじめに

第一部　イデオロギー
第二回　マルクス　『ヘーゲル法哲学批判』および『経済学・哲学草稿』
第三回　マルクス　『経済学・哲学草稿』「第一草稿」
第四回　マルクス　『経済学・哲学草稿』「第三草稿」
第五回　マルクス　『ドイツ・イデオロギー』（１）
第六回　マルクス　『ドイツ・イデオロギー』（２）
第七回　アルチュセール（１）
第八回　アルチュセール（２）
第九回　アルチュセール（３）
第十回　マンハイム
第十一回　ウェーバー（１）
第十二回　ウェーバー（２）
第十三回　ハーバーマス（１）
第十四回　ハーバーマス（２）
第十五回　ギアーツ

第二部　ユートピア
第十六回　マンハイム
第十七回　サン＝シモン
第十八回　フーリエ

４．『解釈の革新』白水社、1978年。
「科学とイデオロギー」（1977）
「解釈学とイデオロギー批判」（1973）
「世俗化の解釈学――信仰、イデオロギー、ユートピア」（1973）

５．リクールの戦略
・掘り下げる、歪曲・病的→正統化→自己同一性（構想力・存在）
行為のシンボル的構造
マルクス　ウェーバー　ギアーツ
・イデオロギーに対するユートピアの先行性・優位
肯定から否定へ（歪曲が生じるには歪曲されるものが存在しなければならない）
運命から自由へ
共同体から個へ
形成から批判へ
ユートピア：新しい意味世界の生成＝古い意味世界の相対化・危機

イデオロギー：意味根拠と意味世界のずれの意識

・社会的構想力：1970 年代の中頃のもう一つの研究テーマ、隠喩・譬えの問題。

言語・構想力から人間へ

個人と共同体、構想力から倫理へ

cf. 構想力の問題：カントからハイデッガーへ

カント『純粋理性批判』

ハイデッガー『カントと形而上学の問題』

アーレント『カント政治哲学の講義』

あるいは、時間論（ティリッヒ）

・Paul Ricoeur," Listening to the Parables of Jesus."in: Charles E.Reagan and David Stewart (eds.), *The Philosophy of Paul Ricoeur*, Beacon Press, 1978.

What makes sense is not the situation as such, but, as a recent critique has shown, it is the plot, it is the structure of the drama, its composition, its culmination, its denouement.（240）

a network of intersignification, to understand each one in the light of the other（242）

Mt.13:45-46,47-49

Three critical moments emerge: finding the treasure, selling everything else, buying the field（240）

Event（the newness）/ Reversal / Doing

the event comes as a gift.（241）

The power of this language is that it abides to the end within the tension created by the images.

think through the richness of the images / metaphor（242）

The challenge to the conventional wisdom is at the same time a way of life. We are first disoriented before being reoriented.

reorientation by disorientation, extravagance

this dramatization is both paradoxical and hyperbolic.（244）

surprising strategy of discourse.

To listen to the Parables of Jesus, it seems to me, is to let one's imagination be opened to the new possibilities disclosed by the extravagance of these short dramas. If we look at the Parables as at a word addressed first to our imagination rather than to our will, we shall not be tempted to reduce them to mere didactic devices, to moralizing allegories. We will let their poetic power display itself within us.

poetic power of Parables / the Event / Reversal / Decision（moral）（245）

６．本講義の方法：

・マルクス、アルチュセール、マンハイム、ウェーバー、ハーバーマス、ギアーツを辿り直す。

・ティリッヒのユートピア論を参照する。

芦名定道「ティリッヒのユートピア論」、現代キリスト教思想研究会『ティリッヒ研究』第３号、2001 年、73-82 頁。

http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/57592

芦名定道・小原克博『キリスト教と現代――終末思想の歴史的展開』世界思想社。

・キリスト教思想史の題材によってユートピア論を補強する。
　モンタノス運動、フィオーレのヨアキム、ミュンツァー
　　→　終末論と知恵思想、パウロへ
７．聖書における幻の意義
・黙示的終末的
「その後
　わたしはすべての人にわが霊を注ぐ。
　あなたたちの息子や娘は預言し
　老人は夢を見、若者は幻を見る。」（ヨエル 3.1）
　　聖霊、幻、平等主義→黙示的民衆運動
・知恵：「幻がなければ民は堕落する」（箴言 29.18）
　　↓
　「神の国」のリアリティとは何か。
　　神の国が、言葉において到来すること＝言葉の出来事
　　Wortgeschehen, Sprachereignis
　　イエスの譬え、あるいは説教
　　↓
　　パウロの義認論：ユンゲル
　　イエスとパウロをつなぐのは言葉の出来事か？

・イエスの譬え
Eta Linneman, *Gleichnisse Jesu*, Göttingen, 1978（1961）.
Eberhard Jüngel, *Paulus und Jesus*, Tübingen, 1979（1962）.
Robert W. Funk, *Language, Hermeneutic, and Word of Go*d, New　York, 1966.
　　, *Parables and Presence*, Fortress, 1982.
　　The Good Samaritan as Metaphor
Dan Otto Via, *The Parables.Their Literary and Existential Dimension*, Fortress, 1967.
John Diminic Crossan, *In Parable. The Challenge for the Historical Jesus*, New　York, 1973.
Amos N. Wilder," An Experimental Journal for Biblical Criticism. An Introduction,"
　in: *Semeia 1*,1974.
　　, *Jesus' Parables and the War of Myths*, Fortress, 1982.
Norman Perin, *Jesus and the Language of the Kingdom*, Fortress, 1980（1976）.

・言葉の出来事
　　言葉の語りは出来事であり、その意味は了解される。
　　意味の了解は、解釈学的プロセスの中において生成する。